



児童発達支援・放課後等デイサービス における支援プログラム 公表



事業所名

ここあーる（法人名：合同会社Infiniti）

営業日

月曜日から土曜日

（日曜日・祝日休み、夏季8月13日～15日・年末年始12月27日～1月3日休業）

営業時間

9:00～18:00

送迎

月～金曜日：送迎あり

土曜日：送迎なし

法人理念

「福祉を追究し、創造する」

「利用者を第一に」

「公私の別を明らかに」

地域から必要とするニーズにこたえ、児童一人ひとりの成長に寄り添いながら支援します。

<p>支援方針</p>	<p>家庭的な環境 × 専門的な支援 一軒家を利用し、落ち着いた雰囲気の中で、少人数制の手厚い支援を提供する。</p> <p>①少人数制での個別支援 「ぺんぎんくらす」では4人の児童に対して4人の先生がサポートし、「らいおんくらす」では6人の児童に対して4人の先生が支援する。児童一人ひとりに細やかな対応ができる環境を整え、安心して成長できるようサポートを行う。</p> <p>②専門チームによる総合的な支援 【ことばの教室（言語聴覚士）】遊びを通じて発音や語彙を増やし、伝える力を伸ばす。「話したい」「伝えたい」という気持ちを大切に、やりとりを楽しめるように支援する。 【からだの支援（作業療法士）】姿勢や体の使い方、手先の器用さを個別にサポートする。成功体験を増やし、自信を持てるように支援する。発達段階に応じた環境で、安定した成長を促進する。</p>
<p>支 援 内 容</p>	
<p>本人支援</p>	<p>健康・生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事、衣類の着脱、排泄、身なりを整える等の生活を営む上で必要となる基本的技能の習得に対して、視覚情報の提示など子どもの特性に合わせた指導を実践していく。
	<p>運動・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動：自分の身体を思い通りに動かし、安定した姿勢を保てるようにするために、作業療法士が主体となり、個々の発達に応じた運動プログラムを提供する。体幹の強化やボディイメージの向上を目的とした遊びや運動を取り入れながら、姿勢の安定性や協調運動の発達を促し、日常生活や遊びの中で自信を持って動ける身体づくりを支援する。 ・微細運動：手指の発達を促し、生活動作の基盤を築くために、一人ひとりの発達段階に応じた支援を行う。製作活動や運筆、折り紙などの課題を通じて、指先の巧緻性や目と手の協応動作を育み、日常生活や学習の基礎となる力を身につけられるよう支援する。 ・感覚統合：子どもが自らの身体や環境を適切に認識し、円滑に活動できるよう、遊びを通じて感覚統合を促す。触覚（素材遊びや感触遊び）、視覚（追視や空間認知を高める活動）など、発達の土台となる基礎感覚にアプローチし、心地よい刺激の中で感覚の発達を支援する。
	<p>認知・行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性に応じた環境調整を行いながら、認知力を高め、自己調整の方法を身につけることで、状況に応じた適切な行動ができるよう支援する。 ・視覚的支援（タイムタイマーやスケジュールボード等）を活用し、日常生活の中で時間の見通しを持てるよう支援する。活動の切り替えをスムーズに行えるよう、次の予定を伝えたり、時間の経過を視覚的に示したりすることで、生活リズムの理解を深める。 ・色・数・図形・感情などの基礎概念を遊びを通じて習得し、日常生活で活用できるよう支援する。
	<p>言語・コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士による個別指導を中心に、視覚情報や遊びを通じて自然な形で学びを促進する。 ・言葉を使って自分の気持ちや考えを伝えられるよう、遊びを通じて意欲を引き出しながら支援する。正しい発音や語彙力の向上、聴く力を育むために、発話の機会を増やし、言語の楽しさを感じてもらえるよう配慮する。 ・発音の正確さを意識した発話練習を行う。自分の言葉に自信を持てるように、正しい発音を身につけ、日常生活で活かせるコミュニケーション力を育てる。 ・言語領域におけるスクリーニング検査を通じて、発達段階に応じた具体的な支援を実施する。検査結果に基づいて支援方法を調整し、一人ひとりに合わせた療育プランを作成。
	<p>人間関係・社会性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して遊びを楽しむことで、仲間との連携やコミュニケーションを学び、満足感や達成感を感じられるよう支援する。集団遊びや共同作業を通じて、ルールを守ることの大切さを理解し、協調性や適切な社会的行動を身につけることを目指す。 ・遊びを通して、他者に対する興味や関心を深め、遊びの幅を広げることで、コミュニケーション能力を育てる。大人や他の子どもと一緒に遊ぶ機会を増やし、社会的なスキルを自然に身につけられるように配慮する。 ・小集団の中で集団生活のルールや約束を守りながら活動することで、集団生活への適応力を高めることを目指す。視覚的なスケジュールや簡単な指示を使って、安心して行動できるよう支援する。

<p>家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関する事項、支援内容と意図に関する説明/相談/助言などを実施 ・家庭生活に関する相談・助言等 ・集団生活に関する相談・助言等 ・きょうだい児に関する相談・助言等 <p>※家族のニーズに応じ、相談援助を事業所での対面や電話にて実施。</p>
<p>移行支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で支援し、習得した行動を保育所や学校、家庭などで同様の行動ができるように、般化を目指した支援を行う。 ・移行先（保育所・学校等）への情報の共有。
<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市児童発達支援研修会への参加。 ・自立支援協議会清田区地域部会～子どもチーム交流会～への参加。 ・関係する児童発達支援事業所、相談支援事業所に様子を報告するなど情報共有し、密な連携を図る。 ・各関係機関（保育所や相談支援事業所、他の通所先）との連携、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取り組みや保育所への見学、支援会議への参加。 ・地域社会の中で積極的に活動することを推進するため、地域の公園や児童会館等を活用し、集団活動を行う。
<p>職員の質の向上</p>	<p>児童発達支援の質を高めるため、職員の専門性向上と安全管理の徹底に努めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法定研修の実施（安全管理・権利擁護）：職員が適切に支援を行うため、以下の法定研修を定期的実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止・権利擁護研修：児童の権利を守り、安全で安心できる支援環境を整えるための研修 ・防災研修：災害発生時の対応や避難誘導の方法を学ぶ研修 ・感染症対策研修：感染症の予防・対応についての知識を深め、適切な対策を講じるための研修 2. 職員の専門性向上のための研修・講座の受講：職員は、児童発達支援に関する知識や技術を向上させるため、外部研修や講座を積極的に受講。受講した研修の内容は、事業所内で共有し、実践を通して支援の質向上に活かしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニング研修、ビジョントレーニング研修、ペアトレーニング研修、不登校支援研修、強度行動障害支援者養成研修、発達障害児に対する評価と治療に関する講座（北海道作業療法士会主催）、感覚統合入門講習会、作業療法士が考えるDCDの子どもへのアプローチ講習、言語発達講座、小児構音障害の評価と治療（北海道言語聴覚士会主催）、救命講習、甲種防火管理者新規講習、障がいのある人を支援する防災研修、発達障がい講座、児童発達支援管理責任者研修、自律型人材育成研修等 3. 研修内容の共有と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・受講した外部研修の内容は、職員会議などを通じて共有し、事業所全体で知識を深めている。 ・学んだ支援方法を実際の現場で実践し、より効果的な支援が提供できるよう取り組んでいる。
<p>主な行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせた製作・イベント ・誕生日会 ・避難訓練の実施（6月・12月）